

平成 2 3 年度

相模原市自然環境観察員制度 年次報告書



相模原市

はじめに

私たちのまち相模原は、首都圏に位置する政令指定都市であるとともに、雄大な丹沢の山なみ、ゆたかな相模川の流れ、広大な相模野の大地といった豊富な自然を有しています。

大気汚染や水質汚濁、ゴミの増加といった都市・生活型の問題に加え、近年問題となっている地球温暖化や資源の枯渇などの地球規模の問題は、私たちの身近な自然環境をも脅かすようになっています。こうした問題から自然環境を保全していくためには、地球規模の広い視野をもって地域で着実に環境問題に取り組んでいくことが、とても重要です。

平成13年に設置された「相模原市自然環境観察員制度」は、身近な自然環境への関心を高め、環境保全意識の高揚を図ることや、大切な自然を保全していくための基礎資料を継続的に集積していくことを目的とするもので、市民の皆様のご協力のもと調査を毎年実施してきました。

平成23年度は88名の皆様に「自然環境観察員」としてご参加いただき、植物、野鳥、湧水、河川生物相の各専門調査部会による調査や、それぞれの部会の企画による学習会や観察会を実施しました。また、旧相模原市の区域を対象に実施してきた「全体テーマ調査」について、平成23年度は調査を休止し、これまでの10年間の歩みをまとめる作業を実施するとともに、津久井地域との合併によって拡大した市域全体を調査の対象とするための新たな調査方法を検討しました。

この報告書は、自然環境観察員の皆様1人ひとりが「相模原の身近な自然」を注意深く地道に調査した記録や活動の内容をまとめたものです。この報告書が、身近な自然環境に皆様に関心をもっていただく一助となり、さらには、より多くの皆様の着実な行動によって相模原の豊かな自然環境がよりよいものになるよう、ご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、自然環境観察員の皆様をはじめ、本制度の運営にあたりご協力をいただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。

平成25年2月

相模原市立環境情報センター

目次

第1章 自然環境観察員制度について.....	1
1 自然環境観察員とは.....	1
2 自然環境観察員の募集.....	1
3 自然環境観察員制度の概要.....	1
4 実施内容.....	2
第2章 調査事業.....	4
1 専門部会調査.....	4
(1) 植物調査部会.....	5
(2) 湧水調査部会.....	8
(3) 河川生物相調査部会.....	13
(4) 野鳥調査部会.....	14
2 自主テーマ調査.....	20
第3章 学習活動.....	29
1 第1回かんきょう学習セミナー.....	29
2 第2回かんきょう学習セミナー.....	29
3 第3回かんきょう学習セミナー.....	29
4 第4回かんきょう学習セミナー.....	29
第4章 事業連携・広報活動.....	30

資料編

自然観察かわらばん(第1号)

自然観察かわらばん(第2号)

自然環境観察員制度について

1 自然環境観察員とは

自然環境観察員制度は、身近な自然に目を向け、市民と行政が一体となって本市の自然環境を調査し、現状や変化を捉えていく中で、環境保全意識の高揚を図るとともに、大切な自然を監視・保全していくための基礎資料を継続的に集積していくことを目的としています。

また、平成 22 年 3 月に策定した環境基本計画では、生物の生態調査や環境学習の推進のための当初 5 か年の主な取組の一つとして、本制度による身近な生きもの調査の実施が挙げられています。

2 自然環境観察員の募集

観察員の募集は「広報さがみはら」(平成 23 年 3 月 1 日号)などで行いました。様々な世代の方からご応募をいただき、88 名を「相模原市自然環境観察員」として登録しました。

3 自然環境観察員制度の概要

本制度の運営及び活動については、以下のとおりです。

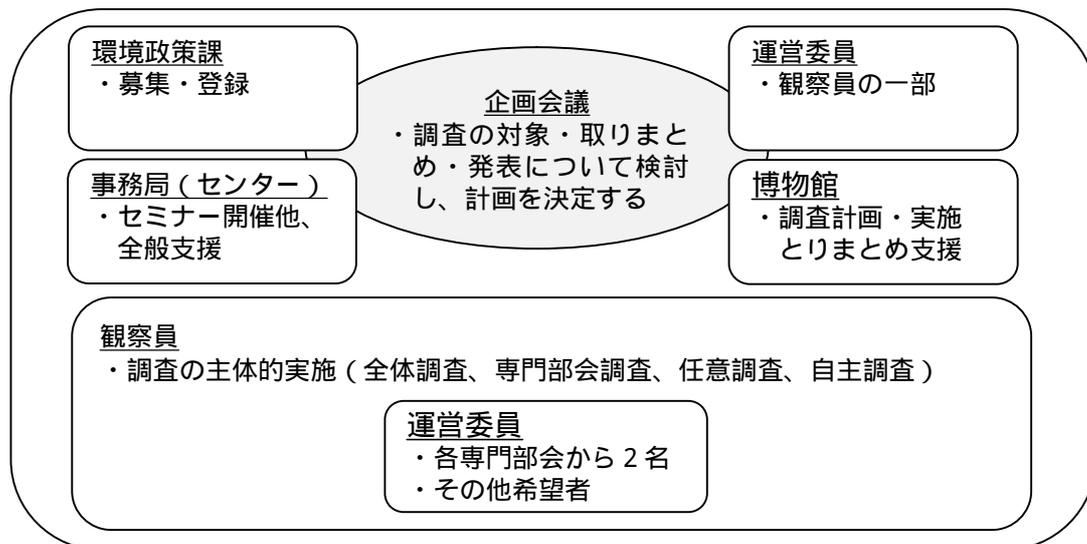
市民等を対象として「自然環境観察員」を公募し、「指標動植物種」を中心に調査を実施します。また、自然環境に関する知識の向上を目的に、ワークショップ、勉強会などを定期的に開催します。

自然環境観察員による調査の結果は、年次報告書などに掲載して成果を広く公表し、自然環境基礎調査の継続データとして蓄積するとともに、指標動植物種を更新する際の基礎データとして活用します。

* 指標動植物種

地域の自然をはかるものさしとなるような動植物。観察・調査の際の指標として用いる種。本市では、平成 10～12 年度に実施した相模原市自然環境基礎調査の結果により、独自に選定しました。(相模原市自然観察ガイドブック P34 参照)

企画運営体制



4 実施内容

(1) 身近な生きもの調査

	調査項目	調査日時
1	自主テーマ調査	随時
2	専門部会調査	
	植物調査部会	平成23年 4月29日 第1回植物調査部会 5月26日 第2回植物調査部会 6月24日 第3回植物調査部会 7月5日 第4回植物調査部会 8月2日 第5回植物調査部会 9月10日 道保川の植物観察会 10月8日 第6回植物調査部会 11月12日 高田橋の植物観察会
	湧水調査部会	平成23年 4月29日 第1回湧水調査部会 7月30日 平成22年度通年調査結果報告 9月18日 第1回湧水調査(豊水期) 4月16・25日 湧水通年調査 5月8・18・26日 湧水通年調査 6月16・18・21日 湧水通年調査 7月12・23日 湧水通年調査 8月9・10・18・25・26日 湧水通年調査 9月10・16・20・26日 湧水通年調査 10月9・12・17・18・21日 湧水通年調査 11月13・15・16日 湧水通年調査 12月12日 湧水通年調査 平成24年 1月29日 第2回湧水調査(渇水期) 1月10・11・18・19・23日 湧水通年調査 2月8・11・17・20日 湧水通年調査 3月8・12・18・19日 湧水通年調査
	河川生物相調査部会	平成23年 4月29日 第1回河川生物相調査部会 7月9日 第1回河川生物相調査部会現地調査
	野鳥調査部会	平成23年 4月29日 第1回野鳥調査部会 5月7日 第1回野鳥調査(春季・渡り期) 6月4日 第2回野鳥調査(夏期・繁殖期) 9月10日 第2回野鳥調査部会 10月9日 第3回野鳥調査(秋季・渡り期) 平成24年 1月15日 第4回野鳥調査(冬期・越冬期)

(2) かんきょう学習セミナー

	実施内容	実施日	参加者数
1	津久井地区の森林（講義） 鳥屋造林組合 渡辺 巖氏 平成23年度調査について	4月29日	51人
2	相模原市の植物の状況（講義） 市民が取り組む植物調査の意義とその方法（講義） 相模原市博物館 秋山 幸也氏 博物館施設見学	6月24日	22人
3	一般公開セミナー 水生昆虫のことを知る、水生昆虫を調べる（講座） 水生昆虫の標本作製 相模原市博物館 守屋 博文氏	9月4日	14人
4	一般公開セミナー 「蛭を育む湧水めぐり」～道保川の湧水をめぐり、水質や水生生物を調べよう～	10月16日	11人

(3) 企画会議

	実施内容	実施日	参加者数
	企画会議	6月30日	18人

(4) とりまとめ部会

	実施内容	実施日	参加者数
	第1回とりまとめ部会	6月30日	13人
	第2回とりまとめ部会 ・とりまとめの中間報告 ・とりまとめ方法についての意見交換	9月8日	6人

第2章 調査事業

1 専門部会調査

自然環境調査には、専門的な知識が必要なものや、グループで行ったほうが効率的なものがあります。興味・関心が共通し、同じような問題意識を持っている人がまとまって様々な活動をする中で、より専門的な活動が図れるよう専門部会を設置しています。

また、「全体テーマ調査」は稀少種などの特定の地域のみで生息・生育するものを調査するには不向きで、専門部会は補完の役割も果たしています。

平成23年度現在の専門部会の設置状況は以下のとおりです。

平成23年度は過去10年間のまとめ作業を実施した為、全体テーマ調査は実施していません。

表2-1 専門部会の設置年度と登録者数

部会名	設置年度	平成23年度の登録者数
植物調査部会	平成14年度	24名
湧水調査部会	平成14年度	14名
河川生物相調査部会	平成18年度	20名
野鳥調査部会	平成18年度	20名



(1) 植物調査部会

ア 設置目的

植物には限られた地域に生育しているものや同定が難しいものなどがあるため、全体テーマ調査だけで必要なデータを得ることは困難です。また、自然環境基礎調査で得られた稀少種のデータを活かし現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。そのため、植物に関心を持つ観察員が協力し合い、相模原市の貴重な植物の調査を行うことを目的に植物調査部会を設置しました。

イ 活動報告

(ア) 第1回植物調査部会

- a 形式 会議
- b 日時 4月29日(金)
- c 場所 環境情報センター 2階学習室
- d 参加者 7名
- e 内容 リーダー、サブリーダーを決め、平成23年度の活動方針について話し合いました。

(イ) 第2回植物調査部会

- a 形式 会議
- b 日時 5月26日(木) 午前10時～11時30分
- c 場所 環境情報センター 2階活動室
- d 参加者 合計9名
観察員7名(青野、浅原、宇山、加々宮、齊藤(嘉)、中、藤井)
事務局2名(岩下 斉藤)
- e 内容 平成23年度の活動方針について会議を行いました。
毎月1回の活動を基本とし、定例植物調査会及び連絡会を行う事を決定しました。また今後の活動内容として、環境学習会を積極的に行うこと、環境活動の一環として緑化活動を行うことを決定しました。

(ウ) 第3回植物調査部会(前半)

- a 形式 第2回かんきょう学習セミナー(公開セミナー)
- b 日時 6月24日(金) 午後1時30分～4時
- c 場所 相模原市立博物館 実習実験室
- d 参加者 合計15名
観察員 9名(青野、市川、加々宮、小林(義)、金銅、齊藤(嘉)、中、藤井、塩沢)
一般市民4名
事務局2名(渡部、近藤)
- e 内容 植物調査の事前学習として、スキルアップを目的としたセミナーを開催しました。自然環境観察員を対象と限定せず、公開セミナーとして一般の参加も受け付けをしました。相模原市立博物館の秋山幸也氏を講師に迎え、地域生物のインベントリー調査について学び、植物標本保管庫の見学を行いました。

(工) 第3回植物調査部会(後半)

- a 形式 会議
- b 日時 6月24日(金)午後4時~5時30分
- c 場所 相模原市立博物館 実習実験室
- d 参加者 合計15名
観察員9名(青野、市川、加々宮、小林(義)、金銅、齊藤(嘉)、塩沢、中、藤井)
一般市民4名
事務局2名(渡部、近藤)
- e 内容 7月12日に植物観察を含めた調査を実施することを決定しました。

(才) 第4回植物調査部会

- a 形式 会議
- b 日時 7月5日(火)午前10時~正午
- c 場所 環境情報センター 2階活動室
- d 参加者 合計8名
観察員6名(市川、小野、齊藤(嘉)、中、藤井、山口(富))
事務局2名(渡部、近藤)
- e 内容 6月24日の公開セミナーの報告を行いました。7月の植物調査方法について話し合いをしました。7月12日に実施を予定していた植物観察会を中止にしました。

(カ) 第5回植物調査部会

- a 形式 学習会・マツバボタンの植栽
- b 日時 8月2日(火)午前9時~正午
- c 場所 環境情報センター 2階活動室
- d 参加者 合計9名
観察員7名(青野、小野、市川、仙田、中、藤井、山口(富))
事務局2名(渡部、近藤)
- e 内容 植物部会所属の中さんが講師となり、環境問題や身の回りのことについて、学習会を兼ねた意見交換会を行いました。その後、環境情報センターの植え込みにマツバボタンの植栽を実施しました。

(キ) 道保川の植物観察会

- a 形式 植物観察会
- b 日時 9月10日(土)午前10時~正午
- c 場所 道保川公園
- d 参加者 合計11名
観察員9名(青野、荻原、加々宮、仙田、中、藤井、山口(富)、瀧島関塚)
事務局2名(渡部、近藤)
- e 内容 道保川公園内を散策し、草花の観察会を行いました。20種程度の植物を記録しました。

(ク) 第6回植物調査部会

- a 形式 学習会
- b 日時 10月8日(土)午前9時~11時
- c 場所 環境情報センター 2階活動室
- d 参加者 合計6名
観察員4名(青野、小野、中、藤井)
事務局2名(岩下、近藤)
- e 内容 植物部会所属の藤井さんを講師に、今日の環境問題(食糧問題や原子力発電の問題、地球温暖化の問題)について学習会を行いました。

(ケ) 高田橋の植物観察会

- a 形式 植物観察会
- b 日時 11月12日(土)午前10時~正午
- c 場所 高田橋から望地までの区間
- d 参加者 合計6名
観察員4名(小野、加々宮、川崎、藤井)
事務局2名(岩下、近藤)
- e 内容 高田橋から史跡田名向原遺跡公園付近までを散策し、草花の観察会を行いました。50種程度の植物を記録しました。



(2) 湧水調査部会

ア 設置目的

相模川をはじめとする河川と段丘崖に点在する湧水は、相模原市の代表的な自然環境といえます。河川や湧水の水質・水量を維持、生態系の保全を図りながら、将来世代に豊かな水辺を引き継ぐためには継続的な監視が必要であるため、湧水調査部会を設置しました。

イ 調査概要

平成14年度から17年度まで行ってきた一次調査の結果を踏まえ、19年度から23年度までの5年間を二次調査期間として、これまで調査した30箇所のうち、湧水が全く確認できない1箇所を除外した29箇所について経年変化を調査し、記録します。今年度は二次調査の5年目として、清岩寺下、神沢・滝、神沢・上、神沢、老人福祉センター-溪松園下、相模川自然の村裏の6箇所の調査を行いました。

ウ 調査方法

調査方法については、調査結果の比較が容易にできるよう自然環境基礎調査の調査方法にできる限り近づけています。主な変更点としては、自然環境基礎調査で行ったBODの調査は市民参加での調査には適さないことから、CODによる調査に変えています。

表2-2 湧水調査方法の概要

項目	概要	
	湧水調査部会調査 (平成14年度~)	自然環境基礎調査 (平成10年度)
1 調査時期	豊水期(9月下旬)と渇水期(1月下旬)の年2回	
2 調査箇所	29箇所を5年で実施 (第2次調査)	30箇所を1年で実施
3 水質調査	(1)水質調査項目 水温 溶存酸素量(DO):測定せず 水素イオン濃度(pH) 電気伝導率(EC) 化学的酸素要求量(COD) 湧水量	(1)水質調査項目 水温 溶存酸素量(DO) 水素イオン濃度(pH) 電気伝導率(EC) 生物化学的酸素要求量(BOD) 湧水量
4 植物調査	(1)時期 豊水期調査及び渇水期調査と同期日 (2)方法 湧水周辺の植物について、成育種の確認、群落の大きさ、生育状況などを記録	(1)時期 夏期植生調査時に実施 (2)方法 湧水周辺の植物について、成育種の確認、群落の大きさ、生育状況などを記録
5 水生生物調査	(1)時期 豊水期調査及び渇水期調査と同期日 (2)方法 湧水地及びこれに続く水路、湿性地を対象として、水生動物の確認(定量時間30分程度の任意採集)	(1)時期 豊水期調査と同期日 (2)方法 湧水地及びこれに続く水路、湿性地を対象として、水生動物の確認(サーバーネット及びタモ網を用い定量時間30分の任意採集)

エ 活動報告

(ア) 第1回湧水調査

- a 形式 調査(豊水期)
- b 日時 9月18日(日)午前9時~午後3時
- c 場所 清岩寺下、神沢・滝、神沢・上、神沢、老人福祉センター溪松園下、相模川自然の村裏(全6箇所)
- d 参加者 合計10名
観察員7名(井口、岡野、大湖、貝瀬、小林(義)、斎藤(裕)、田畑)
事務局3名(岩下、楠、渡部)
- e 内容 水質調査班、植物調査班、水生生物調査班の3班に分かれて調査を行いました。神沢・滝にはタイヤやベニヤ板が捨てられているなど、どの地点もゴミが目立ちました。水質、植生環境、管理については概ね普通でした。老人福祉センター溪松園下は、調査地点の上下に土管があるため、「湧水」に該当しない可能性があります。



(イ) 第2回湧水調査

- a 形式 調査(湧水期)
- b 日時 1月29日(日)午前9時~午後3時
- c 場所 清岩寺下、神沢・滝、神沢・上、神沢、老人福祉センター溪松園下、相模川自然の村裏(全6箇所)
- d 参加者 合計9名
観察員6名(青野、井口、岩田、岡野、貝瀬、仙田、)
事務局3名(岩下、楠、渡部)
- e 内容 水質調査班、植物調査班、水生生物調査班の3班に分かれて調査を行いました。清岩寺下、神沢・滝以外の地点では、水涸れが懸念されます。水質、植生環境、管理については概ね普通でしたが、水生動物相については清岩寺下において過去の調査と比較して著しく水生動物相の種数が減っていました。



(ウ) 調査結果 - 地点評価 -

表2-3 湧水調査部会調査結果(平成23年度)

No	名称	湧水量	水質	植生環境	水生動物相	管理	総評	変化
24	清岩寺下	B	B	B	C	A		→
25	神沢・滝	A	B	B	A	B		↗
26	神沢・上	C	A	B	B	B		→
27	神沢	C	B	B	B	B		→
28	老人福祉センター 溪松園下	C	B	B	B	B		→
29	相模川自然の村・水路		-		-		-	-
30	相模川自然の村裏	C	A	B	B	B		↘

(評価基準)

湧水量	A：湧水量が豊富 B：湧水量がやや豊富 C：染み出す程度 D：水涸れする時期がある
水質	A：各項目とも良好 B：普通 C：生活排水が混入している
植生環境	A：良好な樹林環境がある B：樹林がある C：樹林がない
水生動物相	A：水生動物相が豊富 B：普通 C：水生動物相が貧相
管理	A：湧水が管理されている B：とくに管理はされていない C：管理されておらず、ゴミが散在している
総評	○：湧水量及び水質並びに周辺環境が良好 △：湧水量及び水質並びに周辺環境がやや良好 ×：湧水量及び水質並びに周辺環境が貧弱 ××：湧水が水涸れし、湧水地機能がなし

(工) 通年調査

- a 形式 通年調査
 b 日時 6月～5月に月一回(調査地点によって、日時が異なる)
 c 場所 表2-4に示した10地点で行いました。

表2-4 通年調査地点

地点番号	地点名	備考
No.3	道保川公園内	中央区上溝虹吹地先
No.5	十二天神社横	南区下溝2402(古山地先)
No.7	フィッシングパーク上	南区下溝下原地先
No.10	相模ヶ丘病院下	南区下溝松原地先
No.13	勝坂遺跡(有鹿谷)	南区磯部上磯部地先
No.15	当麻山公園	南区当麻芹沢地先
No.17	塩田ホーム脇水路	中央区田名8983(塩田地先)
No.18	東急工建下	中央区田名塩田地先
No.28	老人福祉センター溪松園下	中央区大島3337(中ノ郷地先)
No.30	相模川自然の村裏	中央区大島3846(上大島地先)

- d 参加者 合計10名(井口、岡野、貝瀬、小泉、小林(義)、斎藤(裕)、鹿内、竹内、武田、益子)
- e 内容 月に一度、あらかじめ設定した調査地点で湧水調査を実施し、現地で水質等の測定を行いました。また、現地で湧水のサンプルを採取し、後日分析を行いました。測定項目と分析項目は表2-5のとおりです。
 測定結果と代表的な無機陰イオン(塩素イオン、硝酸イオン、硫酸イオン)分析結果は、図1-1～6のとおりです。
 pHはNo.28、30において高めで、変動も大きい傾向が見られましたが、その他の地点においては概ね6.5～7.5付近でした。7.0未満と若干酸性側に寄っている地点は、地下水位が浅いことが考えられます。
 湧水量は多くの地点で9月から11月と5月に多い傾向が見られました。これは、降雨量に連動して変動していることが考えられます。また、湧水量が元々多い地点においては変動が大きい傾向がみられました。
 電気伝導度はNo.13、15、17、18において変動が見られ、特にNo.17では高い値を示していました。その他の地点はほぼ安定した一定の値を示しました。

陰イオン濃度は塩素イオン、硝酸イオンにおいて多くの地点で変動がみられませんでした。しかし、No. 17の硫酸イオン濃度は70 mg/Lと高い値を示していることから、何らかの汚染があると考えられます。硝酸イオンは、どの地点においても10 mg/L以上を示し、特に高い値を示しているNo. 10、13においては、変動も大きく、天然水にはほとんど含まれていないことから、人為的汚染が示唆されました。

表2 - 5 湧水年調査測定・分析項目

現地測定項目	分析項目
気温	フッ素イオン
水温	塩素イオン
pH	亜硝酸イオン
電気伝導度	臭素イオン
湧水量	硝酸イオン
	リン酸イオン
	硫酸イオン



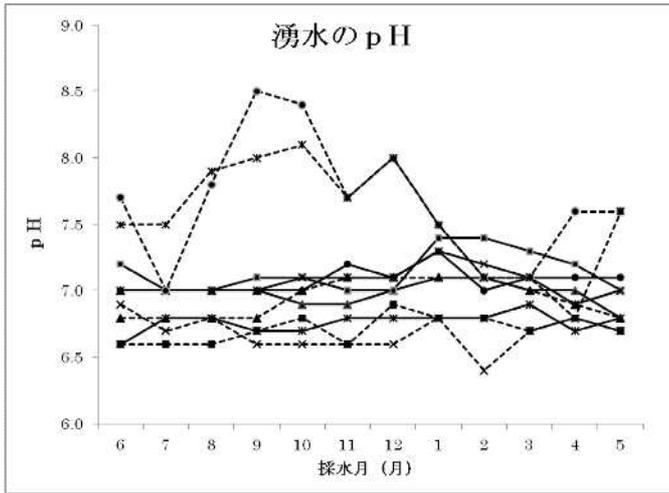


図 1 - 1 通年調査による湧水の pH

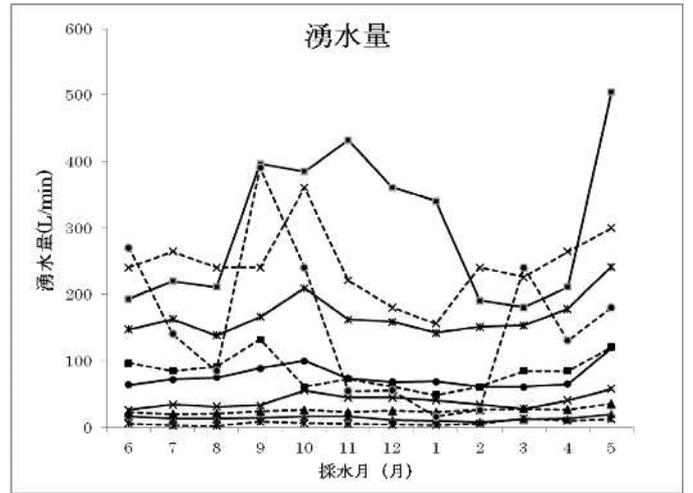


図 1 - 2 通年調査による湧水量

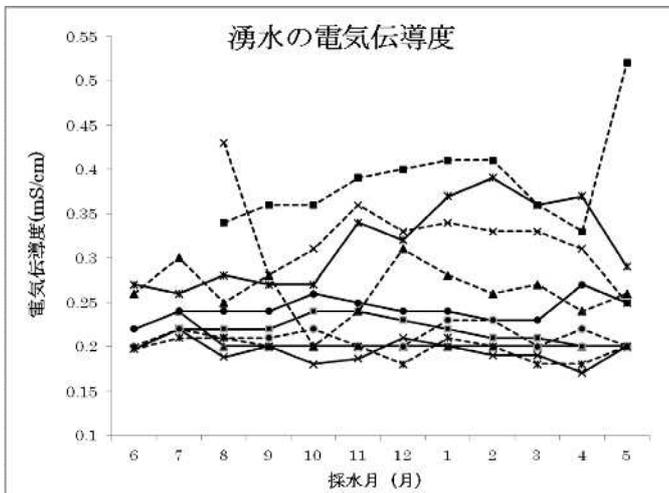


図 1 - 3 通年調査による湧水の電気伝導度

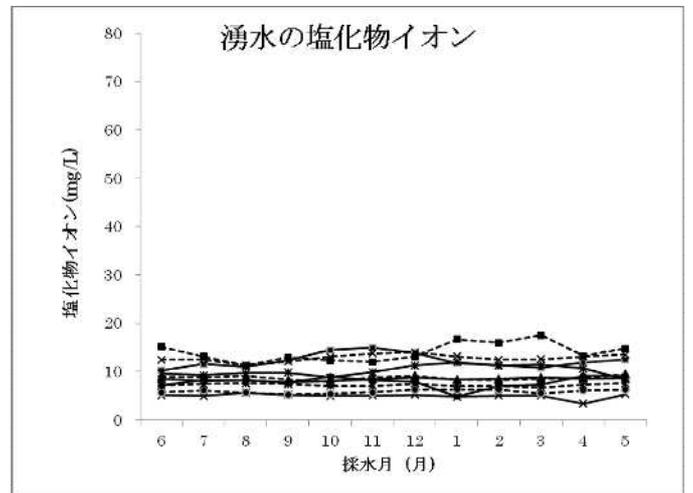


図 1 - 4 通年調査による湧水の塩化物イオン濃度

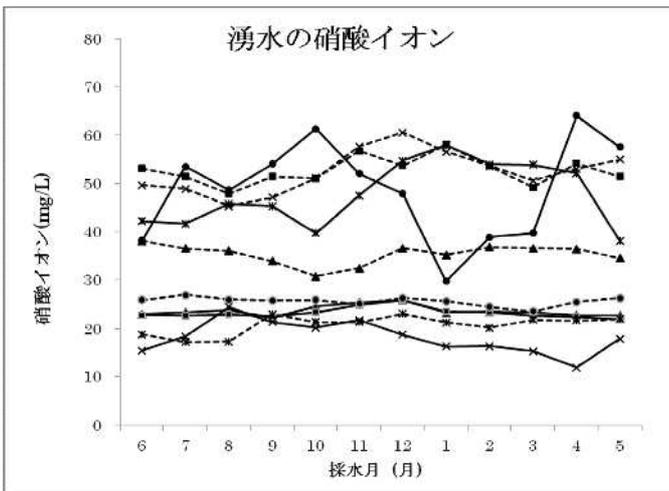


図 1 - 5 通年調査による湧水の硝酸イオン濃度

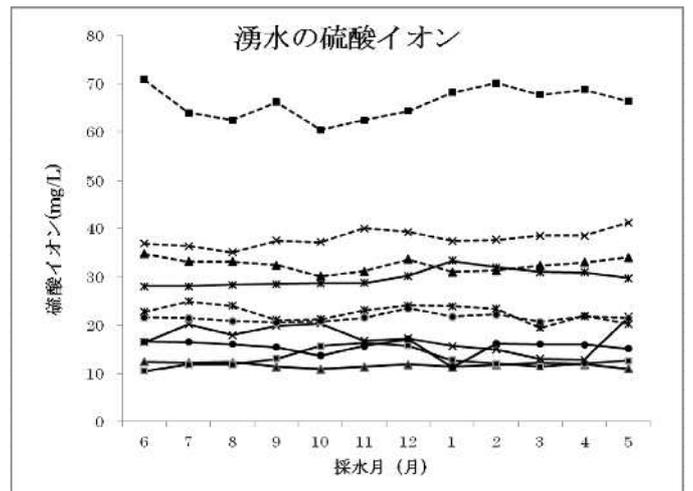
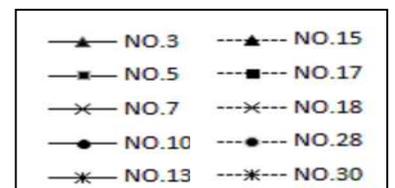


図 1 - 6 通年調査による湧水の硫酸イオン濃度

図 1 - 1 ~ 6 凡例



(3) 河川生物相調査部会

ア 設置目的

相模川をはじめとする河川には様々な生き物が生息しています。とくに河川に見られる底生生物を指標とする河川生物相は、種類、個体数などから、水の汚れ具合を見分けることができます。また、継続的にデータを収集し現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、河川の生き物に関心を持つ観察員が協力し合い、市内を流れる河川の生物相調査を行うことを目的に河川生物相調査部会を設置しました。

イ 活動報告

(ア) 第1回河川生物相調査部会現地調査

- a 形式 河川生物相調査
- b 日時 7月9日(土) 9時~正午
- c 場所 相模川大島キャンプ場下流
- d 参加者 合計10名
観察員8名(石島、井口、大湖、岡野、小林(義)、齋藤(裕)、仙田、武田)
事務局2名(原田、渡部)
- e 内容 大島キャンプ場下流左岸の相模川で河川生物の調査を実施しました。ヒゲナガカワトビケラ、エルモンヒラタカゲロウ、モノアラガイなど計25種の水生生物が確認されました。



(イ) 水生生物の標本作製

- a 形式 かんきょう学習セミナー
- b 日時 9月4日(日) 午後2時~午後4時
- c 場所 環境情報センター 活動室
- d 参加者 合計16名
観察員10名(井口、岡野、加々宮、小林(義)、仙田、武田、星野、水上、大湖、齋藤(裕))
一般市民4名
事務局2名(原田、渡部)
- e 内容 市民(小学生4年生以上)を対象に相模原市立博物館、守屋博文氏を講師として招き水生生物の学習を行い、標本作製しました。



(4) 野鳥調査部会

ア 設置目的

鳥類の生息状況を把握するには、季節的な変動を考慮して年間を通じた調査を行うことが必要であるため、全体テーマ調査だけで必要なデータを得ることは困難です。また、相模原市自然環境基礎調査で得られたデータを活かし現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、野鳥に関心を持つ観察員が協力し合い、現地調査による記録種をもとに、相模原市の鳥類相の把握や鳥類相から見た緑地・水辺の現況の把握を目的に野鳥の調査を行うため、野鳥調査部会を設置しました。

イ 調査概要

自然環境基礎調査の野鳥調査において設定した市内14ルート、13地点を対象に、2班体制で追跡調査を行い記録しています。また、野鳥調査部員が、個人または個人が属する団体等で行う活動で得た情報を活用し補完します。

今年度は、相模原北公園内1ルートと元橋本町の住宅地・大島の台地上の2地点を調査しました。

ウ 調査方法

調査方法については、調査結果の比較が容易にできるように自然環境基礎調査の調査方法にできる限り近づけることとしました。主な変更点として、姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録するようにしました。



表 2 - 6 野鳥調査方法の概要

項目	概要	
	野鳥調査部会 (平成18年度～)	自然環境基礎調査 (平成11年度)
1 調査時期	春季調査(渡り期)-5月中旬- 夏季調査(繁殖期)-6月後半- 秋季調査(渡り期)-10月後半- 冬季調査(越冬期)-2月上旬-	春季調査(渡り期)-5月中旬- 夏季調査(繁殖期)-6月後半- 補足調査(繁殖期)-8月- 秋季調査(渡り期)-10月後半- 冬季調査(越冬期)-2月上旬-
2 調査箇所	14+N ルート・13+N 地点を複数年かけて調査	14 ルート・13 地点を1年で調査
3 調査方法	[線センサス調査法]	
	・あらかじめ設定したルート上を、 時速1.5km～2kmで歩行し、 調査ルートの片側50m(両側100m)幅の範囲内に出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。 ・姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録する。	・あらかじめ設定したルート上を、 時速1.5km～2kmで歩行し、 調査ルートの片側50m(両側100m)幅の範囲内に出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。
	[定点観察法]	
	・あらかじめ設定した調査地点において、範囲は定めずに1地点30分間の観察を行い、出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。 ・姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録する。	・あらかじめ設定した調査地点において、範囲は定めずに1地点30分間の観察を行い、出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。
[任意観察]		
	・野鳥調査部会員が個人又は個人が属する団体において活動して得た情報を活用し補完する。	・上記の手法以外に、調査地域内を任意に調査し、鳥類相の把握を行う。

エ 活動報告

(ア) 第1回野鳥調査

- a 形式 春季調査(渡り期)
- b 日時 5月7日(土)午前9時～正午
- c 場所 A班 相模原北公園内・元橋本町の住宅地
B班 相模原北公園内・大島の台地上
- d 参加者 合計11名
観察員9名(青木、内田、大湖、小川、荻原、木村(直)、塩沢、仙田、瀧島)
事務局2名(渡部、原田)
- e 内容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。

(イ) 第2回野鳥調査部会

- a 形式 夏季調査(繁殖期)
- b 日時 6月4日(土)午前9時～正午

- c 場 所 A班 相模原北公園内・元橋本町の住宅地
B班 相模原北公園内・大島の台地上
- d 参加者 合計11名
観察員9名(池川、内田、大湖、小川、田口、田畑、水上、吉岡(歌)、
吉岡(孝))
事務局2名(渡部、原田)
- e 内 容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。

(ウ) 第3回野鳥調査部会

- a 形 式 秋季調査(渡り期)
- b 日 時 10月9日(日)午前9時~正午
- c 場 所 A班 相模原北公園内・元橋本町の住宅地
B班 相模原北公園内・大島の台地上
- d 参加者 合計11名
観察員9名(内田、大湖、小川、荻原、木村(直)、塩沢、田口、吉岡(歌)、
吉岡(孝))
事務局2名(渡部、原田)
- e 内 容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。

(エ) 第4回野鳥調査部会

- a 形 式 冬季調査(越冬期)
- b 日 時 1月15日(日)午前9時~正午
- c 場 所 相模原北公園内・元橋本町の住宅地
相模原北公園内・大島の台地上
- d 参加者 合計6名
観察員3名(大湖、小川、田口(英))
事務局3名(渡部、楠、荒谷)
- e 内 容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。

(オ) 調査結果

表2-7 野鳥調査部会調査結果 相模原北公園内
(東端～北総合体育館北側の雑木林(ルート調査))

分類			R 5				
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	合計
			H23	H23	H23	H23	H23
ペリカン	サギ	アオサギ	1				1
タカ	タカ	ツミ			1		1
ハト	ハト	キジバト	5	1	4	3	13
キツツキ	キツツキ	アオゲラ			1		1
		コゲラ		1	1	4	6
スズメ	セキレイ	ハクセキレイ				1	1
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	6	6	7	5	24
	ウグイス	ウグイス		1			1
	ヒタキ	キビタキ	1				1
	エナガ	エナガ	2	1		3	6
	シジュウカラ	ヤマガラ				2	2
		シジュウカラ	1	1	5	2	9
	メジロ	メジロ		1	2	3	6
	アトリ	シメ	3				3
	スズメ	スズメ		5			5
	ムクドリ	ムクドリ	9				9
	カラス	オナガ	3	8			11
		ハシブトガラス		1	3		4
野生化した鳥類		ドバト		1			1
合計 目科種	種 数		9	11	8	8	19
	個体数		31	27	24	23	105

相模原北公園内(東端～北総合体育館北側の雑木林(ルート調査))では、ペリカン目1種、タカ目1種、ハト目1種、キツツキ目2種、スズメ目(セキレイ科・ヒヨドリ科・ウグイス科・ヒタキ科・エナガ科・シジュウカラ科・メジロ科・アトリ科・スズメ科・ムクドリ科・カラス科)13種、ドバト、合計19種確認しました。



表2 - 8 野鳥調査部会調査結果 JA 相模原市営農センター西側の畑内の路上（定点調査）

分類			P 2				
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	合計
			H23	H23	H23	H23	H23
タカ	タカ	トビ	1	2	1		4
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		1			1
キジ	キジ	キジ	1				1
チドリ	チドリ	コチドリ	1				1
ハト	ハト	キジバト	7	3	4	2	16
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	4	4	1		9
		ツバメ		1			1
	セキレイ	イワツバメ	2	5			7
		ハクセキレイ	1		1		2
		セグロセキレイ				3	3
	ヒヨドリ	ヒヨドリ			24		24
	モズ	モズ	2	1	1		4
	シジュウカラ	シジュウカラ			3		3
	ホオジロ	ホオジロ				6	6
	スズメ	スズメ	8	12	18		38
	ムクドリ	ムクドリ	7	7		3	17
	カラス	ハシブトガラス	1				1
ハシボソガラス				2		2	
(カラスの仲間)			2			2	
野生化した鳥類		ドバト	5	10	5		20
合計	目科種	種数	12	11	10	4	19
		個体数	40	48	60	14	162

JA 相模原市営農センター西側の畑内の路上（定点調査）では、タカ目 1 種、ハヤブサ目 1 種、キジ目 1 種、チドリ目 1 種、ハト目 1 種、スズメ目（ヒバリ科・ツバメ科・セキレイ科・ヒヨドリ科・モズ科・シジュウカラ科・ホオジロ科・スズメ科・ムクドリ科・カラス科）13 種、ドバト合計 19 種確認しました。



表 2 - 9 野鳥調査部会調査結果 元橋本町 35 番地付近 (定点調査)

分類			P 9				
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	合計
			H23	H23	H23	H23	H23
カツオドリ	ウ	カワウ			1		1
ハト	ハト	キジバト	2		1	1	4
スズメ	ツバメ	ツバメ	5	3			8
	セキレイ	ハクセキレイ	1		2	3	6
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	3	3	13	3	22
	シジュウカラ	シジュウカラ			1		1
	スズメ	スズメ	2	3	11		16
	ムクドリ	ムクドリ	3	9	2	1	15
	カラス	ハシボソガラス				2	2
		ハシブトガラス				4	4
野生化した鳥類		ドバト	7	9		40	56
合計	目科種	種 数	7	5	7	7	11
		個体数	23	27	31	54	135

元橋本町 35 番地付近 (定点調査) では、カツオドリ目 1 種・ハト目 1 種・スズメ目 (ツバメ科・セキレイ科・ヒヨドリ科・シジュウカラ科・スズメ科・ムクドリ科・カラス科) 8 種、ドバト、合計 11 種類確認しました。



2 自主テーマ調査

自然環境には地域差があり、局地的に生息・生育する種などは市内全域を対象とした調査に適さないものも多く、また、観察員の興味・関心や経験なども様々です。さらに、「全体テーマ調査」だけでは、市内の自然環境を評価するには不十分であるため、自主テーマによる調査を導入することにより、より多くのデータを集積することを目的としています。テーマの選択・実施方法・調査時期は、観察員自身が設定して調査をしました。

(1) 自主テーマ調査の紹介

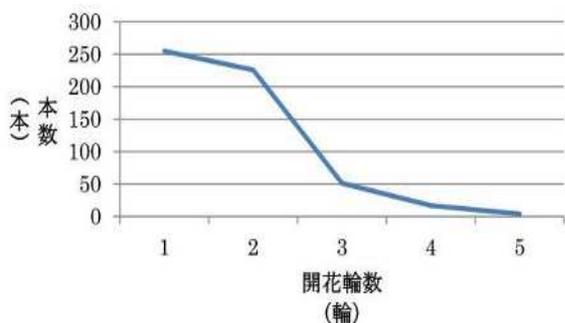
5件の自主テーマ調査の調査結果の提出がありました。

表2 - 10 自主テーマ調査一覧

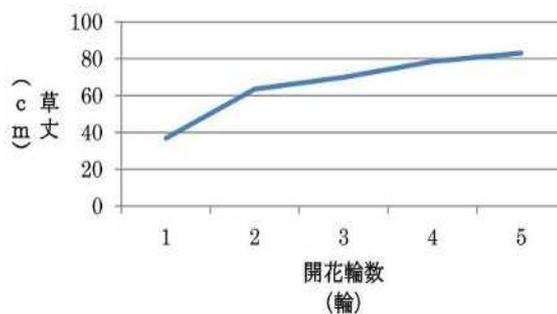
No	報告者	調査テーマと内容
1	加々宮 興	東林ふれあいの森のウバユリ分布調査(6月7日~8月25日) 林内の歩道で仕切られている9つの場所をそれぞれA~Iとし、調査区域として実体調査を実施した。
2	加々宮 興	キツネノカミソリの開花分布調査(7月10日~9月10日) 「東林ふれあいの森」では、H区域で4~5年前に発生開花したものが、徐々に繁殖し、今年(平成23年度現在)では523株以上の花を目視で確認した。
3	加々宮 興	東林ふれあいの森で出会った春の花(4月1日~5月31日)
4	加々宮 興	東林ふれあいの森で出会った初夏の花(6月1日~7月31日)
5	早戸 正広	【上鶴間周辺のチョウの調査】(4月16日~11月23日) 自宅のある上鶴間周辺のチョウについて、無理のない範囲で記録に残している。 普段は市外で働いているため、移動時の目撃記録が主な物である。したがって、記録数は多くない。 数年間継続しているため、チョウ相がだんだん見えてきた。 丹念な調査を行っていないため、すべての種の把握には至っていないと思われる。

(1) 開花株総数 553 株 (目視)

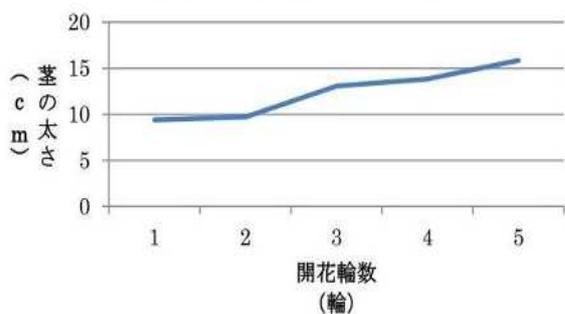
(2) ウバユリの開花輪数別本数



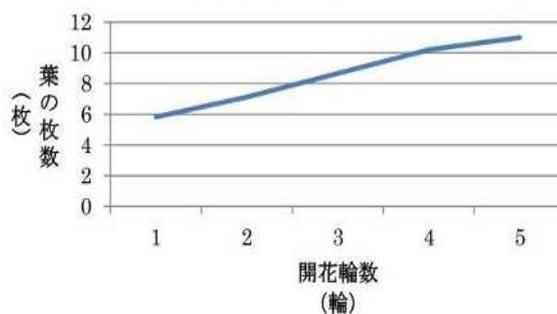
(3) ウバユリ開花輪数別草丈
平均値 (測定具：メジャー)



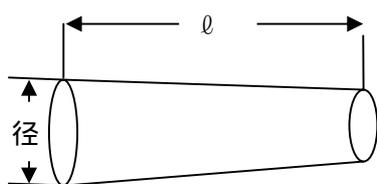
(4) ウバユリ開花輪数別茎の太さ
平均値 (測定具：ノギス)



(5) ウバユリ開花輪数別
葉枚数平均値

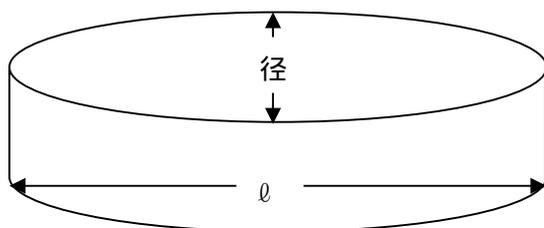


(6) 花の大きさ (全体平均値) (測定具：ノギス)



ℓ
径 5.0 × 13.0 cm

(7) 葉の大きさ (全体平均値) (測定具：ノギス)



ℓ
径 12.62 × 18.62 cm

1. ユリの生育の特徴として、ヤマユリ、オニユリなどと同じくウバユリにおいても生育年数に合わせて花の数が増えるのか。
2. 「つるま自然の森」で群生していたウバユリがなぜ 19 株になってしまったのか。
3. 育成（発生）の場所が「つるま自然の森」に一番近い（距離は 4m 位）B 区に発生しなかったのか。ユリの繁殖は、羽根のついた種子が風により運ばれる。それが何故 35.10m も離れた C 区や B 区に生育、群生したのか。

上記の疑問点の一つでも解明が出来ればと思い、通年調査を行いました。

通年調査の項目として

- ア 種子を採取して、発芽（発芽率なども）から開花までの育成調査
 - イ 現在、森で育成している子苗、一葉から五葉の育成調査
 - ウ 百合の特徴である、生育一年で花の数が増える（1 年 1 個増）ことがウバユリにも当てはまるのか
 - エ 生育場所の環境調査。（A 区から I 区までの環境相違）
 - 雑木の種類 採光の度合（雑木の立つ間隔と本数等） 雑草の種類・密度
 - 土壌の性質（PH 度、地温他）
 - オ 森の環境整備と維持にも協力する
- 以上の項目について、平成 23 年 9 月から順次調査していきたい

調査後の感想等

1. C 区の開花株数が、319 株と一番多かったが草丈が小振りで、一輪咲きの物が 218 株と今後の生育に期待したい。
2. D 区の開花株数は 161 株でしたが、草丈も高く見栄えが良く、二輪咲き 105 株、三輪咲き株四輪咲きが 14 株もあり、今後楽しみです。
3. ウバユリの群生した場所での観察が出来た事に感激しました。



四輪咲きのウバユリ



(1) 分布区C区に群生するウバユリ

【開花始まり7月27日(水)、満開8月2日(火)、開花終わり8月10日(水)】



分布区D区に群生するウバユリ



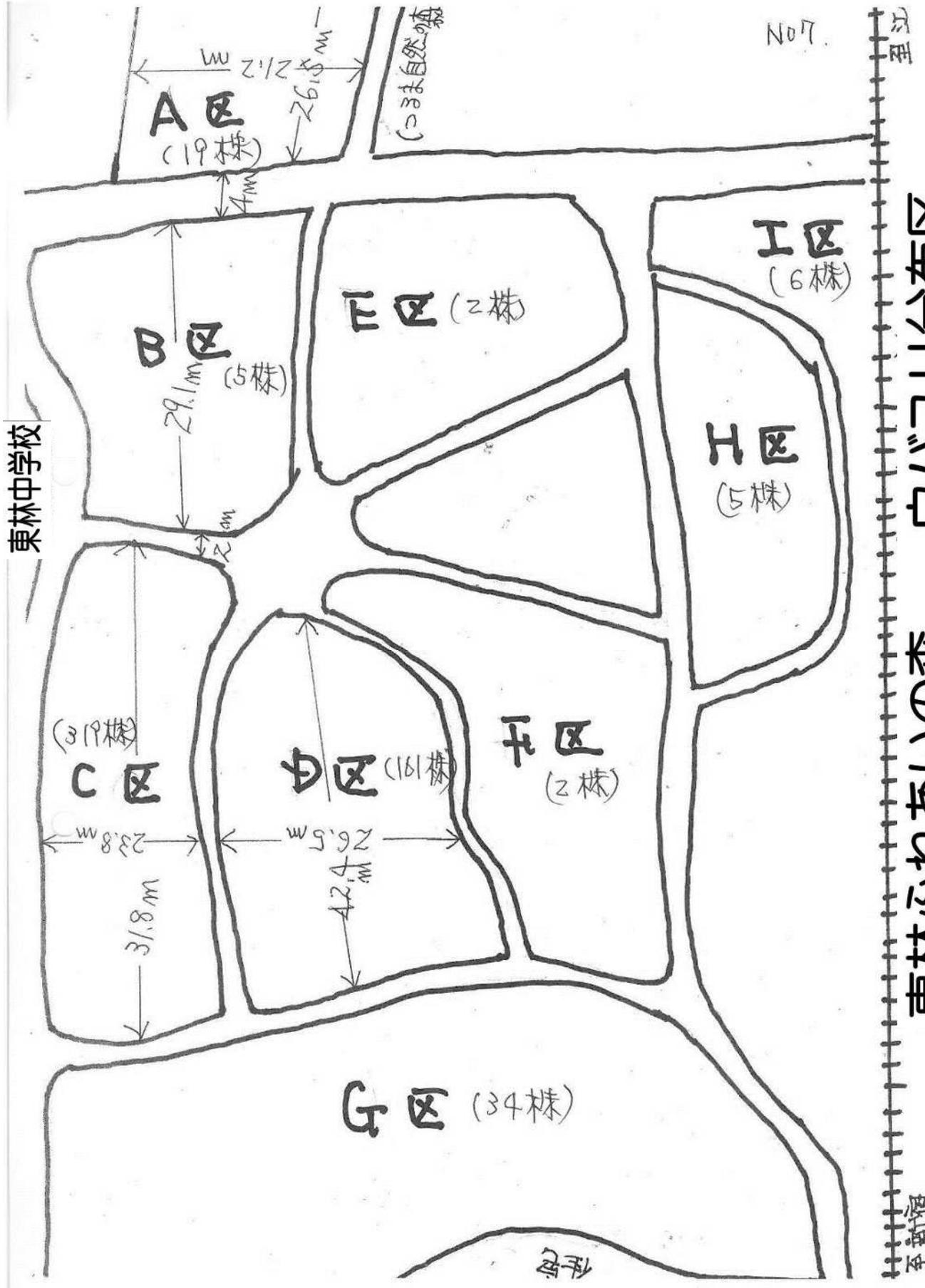
薄日に咲くウバユリ



ウバユリの調査結果一覧表

分布区	輪数 (数)	開花株数 (株)	草丈 (cm)	茎の太さ (mm)	葉数 (枚)	花と葉の大きさ 平均値 (cm)
A区 (19株)	1	13	19~30	8	6~8	花: 4.5×11.5
	2	5	62	9~10	7~8	
	3	1	72	11~14	10	葉: 11.5×16
B区 (5株)	1	3	30~45	8~8.5	7	
	2	2	70	9~10	8	
C区 (319株)	1	218	43~66	0~10	5~7	
	2	93	65~85	9.5~14	7~8	花: 5×14
	3	6	73~76	12~16	7~11	
	4	1	78	15.5	12	葉: 14.5×21
	5	1	83	16	11	
D区 (161株)	1	11	45~60	9~10.5	4~6	
	2	105	35~75	10~12	7~8	花: 5.5×13
	3	29	73~80	12~15	9~10	
	4	14	74~95	13~15	10~12	葉: 14.5×21
	5	2	85~90	17	11~12	
E区 (2株)	2	2	70~75	12~16	7~8	
F区 (2株)	2	1	70	14	6	
	3	1	80	16	8	
G区 (34株)	1	5	30~45	7~9	5~6	
	2	13	35~47	10.5~12.5	6~7	花: 5×13.5
	3	13	40~60	10~13	7~8	
	4	2	70~75	12~15	8~9	葉: 13×19
	5	1	74	14.5	10	
H区 (5株)	2	4	35~46	8~9	6~7	
	3	1	75	11.5	8	
I区 (6株)	1	5	27~40	7~8	4~6	
	2	1	55	9	7	
合計		553				

東林中学校



東林ふれあいの森 ウバユリ分布区

報告No 3 東林ふれあいの森で出会った春の花

報告者：加々宮 興

花の名前	開花期 (最盛期)	開花場所	株数 (株)	株に咲いて いる花の数 (輪)	草丈 (cm)	色
ウラシマソウ	4/3 ~ 4/15	半日陰	52	1	26 ~ 45	褐色
フデリンドウ	4/18 ~ 5/8	半日陰	54	1 ~ 7	2.5 ~ 4	薄紫
キンラン	4/27 ~ 5/10	半日陰	95	2 ~ 8	25 ~ 60	黄
ギンラン	5/4 ~ 5/15	半日陰	38	2 ~ 6	10 ~ 16	白
エビネラン	5/6 ~ 5/16	日陰	2	10 ~ 14	18	外：茶 内：白
キンラン	5/14 ~ 5/23	日陰	15	2 ~ 6	20 ~ 40	黄
マムシグサ	5/14 ~ 5/22	日陰	1	1	75	緑色に白の縦縞
カタクリ	3/26 ~ 4/1	日陰	4	1	15	桃色

キンランは絶滅危惧種に指定されている植物でその特長として菌根菌で繁殖生育して行くものであり、その場所（林や森）でしか育つ事が出来ない。

報告No 4 東林ふれあいの森で出会った初夏の花

報告者：加々宮 興

花の名前	開花期 (最盛期)	開花場所	株数 (株)	一株に咲く 花数 (輪)	草丈 (cm)	色
ヤマユリ	7/28 ~ 8/6	半日陰	8	1 ~ 2	100 ~ 130	白
ホタルブクロ	6/22 ~ 7/2	半日陰	56	4 ~ 6	32 ~ 84	白
イチヤクソウ	6/5 ~ 6/10	半日陰	3	2 ~ 6	5 ~ 10	白
ミズヒキソウ	6/28 ~ 8/15	半日陰	多数	37 ~ 46	88 ~ 95	赤
オオバギボウシ	6/25 ~ 7/6	半日陰	1	7	30	白

イチヤクソウの大きな株が盗掘されて、現在2株になってしまった。

2011調査書

日付	時刻	種名	科番	個体数	性別	目撃地	備考
6月29日	11時10分	アオスジアゲハ	1	1	?	相模大野駅南口駅前広場	
7月24日	9時30分	アオスジアゲハ	1	1	?	上鶴間3-9	
8月23日	9時00分	アオスジアゲハ	1	1	?	上鶴間3-24	
4月16日	12時00分	アゲハチョウ	1	1	?	上鶴間3-10	
5月8日	10時20分	アゲハチョウ	1	1	?	上鶴間2-13	
5月8日	16時00分	クロアゲハ	1	1	?	相模大野アンダーパス	
6月29日	14時40分	クロアゲハ	1	1	♀	上鶴間7-1	
7月26日	11時00分	クロアゲハ	1	1	?	上鶴間4-31	
8月20日	12時50分	クロアゲハ	1	1	?	上鶴間2-14	
7月18日	11時50分	ナガサキアゲハ	1	1	♂	上鶴間4-3	
9月4日	8時00分	モンキアゲハ	1	1	?	東林間駅前公園	台風12号の翌日
5月8日	10時20分	キチョウ	2	1	?	上鶴間2-13	
11月5日	13時55分	キチョウ	2	1	?	上鶴間3-11	
11月20日	10時20分	キチョウ	2	1	?	上鶴間2-13	
6月18日	8時45分	スジグロシロチョウ	2	1	?	深堀中央公園	
5月21日	10時00分	モンシロチョウ	2	1	?	上鶴間5-15	
6月4日	8時00分	モンシロチョウ	2	4	?	上鶴間2-13	
6月29日	17時15分	ヒカゲチョウ	4	1	♂	上鶴間2-13	写真
5月8日	10時10分	ヤマトシジミ	5	1	?	上鶴間7-3	
4月24日	10時00分	アカタテハ	7	1	?	上鶴間2-13	
7月24日	11時30分	アカタテハ	7	1	?	上鶴間2-13	
7月17日	14時10分	アカホシゴマダラ	7	1	?	相模大野駅南口駅前広場	
9月10日	12時00分	ゴマダラチョウ	7	1	?	深堀中央公園	
5月14日	10時10分	ツマグロヒョウモン	7	1	?	くぬぎ台小	
5月15日	12時30分	ツマグロヒョウモン	7	1	?	上鶴間2-13	パンジーで吸蜜
7月23日	14時30分	ツマグロヒョウモン	7	1	♀	上鶴間2-13	
9月19日	12時00分	ルリタテハ	7	1	?	上鶴間3-13	
11月23日	13時30分	ルリタテハ	7	1	?	上鶴間2-13	
8月23日	8時50分	イチモンジセセリ	8	1	?	上鶴間2-13	

アゲハチョウ科	1
シロチョウ科	2
マダラチョウ科	3
ジャノメチョウ科	4
シジミチョウ科	5
ウラキンスジミ科	6
タテハチョウ科	7
セセリチョウ科	8
テングチョウ科	9

※今年度は、6科16種を確認した。(昨年度は、5科16種であった。)

※昨年度より1科多く、同じ種類数の確認であった。(内訳は異なる。)

※ナガサキアゲハ・モンキアゲハ・アカホシゴマダラ・ツマグロヒョウモンなどの南方系の種が確認できた。

※モンキアゲハは、台風12号の翌日であったため、上鶴間地区周辺に定着しているものとは判断できない。

※アカホシゴマダラは、通常、考えられないもので、人為的な原因が推定される。

第3章 学習活動

1 第1回かんきょう学習セミナー

日時 4月29日(金)午後4時~午後5時
場所 環境情報センター 学習室
参加者 51人



(1) 津久井地区の森林

講師 渡辺巖氏(鳥屋造林組合)

(2) 平成23年度の活動について

本制度の目的や意義などについて、事務局から説明を行いました。

(3) 専門調査部会

各専門部会で、平成23年度の活動について話し合いを行いました。

2 第2回かんきょう学習セミナー

日時 6月24日(金)午後1時30分~午後4時
場所 相模原市立博物館
参加者 22人

講義

「相模原市の植物の状況」
「市民が取り組む植物調査とその手法」
相模原市の植物の状況、博物館で実施している調査、市民が取り組む植物調査の意義とその手法について話していただきました。

講師

秋山 幸也氏(相模原市立博物館)



3 第3回かんきょう学習セミナー

日時 9月4日(日)午後2時~午後4時
場所 環境情報センター 活動室
参加者 14人

講義

「水生昆虫のことを知る、水生昆虫を調べる」
「水生昆虫の標本作製」
水生昆虫について、水生昆虫の調べ方をおしていただき、守屋さんに指導いただきながら標本作製しました。

講師

守屋 博文氏(相模原市立博物館)



4 第4回かんきょう学習セミナー

日時 10月16日(日)
場所 相模原市道保川
参加者 11人

観察会

「蛍を育む湧水めぐり」
自然を感じながら道保川付近、湧水の水質や水生生物について調査をしました。



第4章 事業連携・広報活動

1 環境情報センター事業協力者登録制度「エコネットの輪」の登録を更新しました。

2 さがみはら環境まつりへの出展

本制度の調査結果を発表するため、「さがみはら環境まつり」へ出展しました。

日時 平成23年10月23日(日) 午前9時45分～午後4時

場所 環境情報センター及び市体育館

3 学びの収穫祭

平成17年度、22年度に実施した全体テーマ調査「ジョロウグモ分布調査結果」について展示を用いて、平成15年度と20年度に実施した「野鳥調査 - 特にキジバト - 」について口頭で結果の概略を発表しました。

日時 平成23年11月19日(土)
～11月20日(日)

場所 相模原市博物館

発表者 小川路人さん(相模原市自然環境観察員)
渡部良樹(センタースタッフ)



4 第18回市民環境活動報告会

相模原市自然環境観察員制度の活動内容と調査結果の一部について報告しました。

日時 平成24年3月3日(土) 正午～午後5時

場所 かながわ県民センター 2階大ホール

発表者 小川路人さん(相模原市自然環境観察員)



資料編

自然観察かわらばん（第1号）

自然観察かわらばん（第2号）

自然観察かわらばん

第1回「かんきょう学習セミナー」を開催しました



東日本大震災の影響で中止になった平成22年度第3回「かんきょう学習セミナー」と、平成23年度第1回「かんきょう学習セミナー」を、4月29日（金・祝）に開催しました。

この日のセミナーではまず、「津久井地区の森林」の講演を、鳥屋造林組合組合長の渡辺巖先生にいただきました。丹沢に囲まれた鳥屋の話、大山のシカが丹沢に下りてきて植林した木を食べてしま

う食害や、木材の輸入が国内林業衰退の原因のひとつであることを話されました。

その後、平成22年度の自然環境観察員制度の活動報告として、全体テーマ調査のタンポポ類調査とジョロウグモ分布調査の結果を発表し、さらに各専門部会の平成22年度の活動内容を報告しました。発表にご協力くださった皆さまに厚く御礼申し上げます。

平成23年度第1回かんきょう学習セミナーとしては、相模原市自然環境観察員制度について説明し、その後、各専門部会に分かれて第1回部会を開催しました。



今年度の活動について

1. 調査結果のとりまとめ

平成13年度から22年度までの10年間に実施してきた、「全体テーマ調査」を今年は実施せず、そのかわりに全体テーマ調査の10年間のとりまとめを行うことにしました。そのために「とりまとめ部会」を新たに設置し、各専門部会から1名以上のとりまとめ部会担当の方を選出しました。とりまとめ部会は、このとりまとめ部会担当の方々に加え、各専門部会のリーダーとサブリーダー、そして意向調査でとりまとめ部会への参加を表明してくださったの方々により、構成されています。

2. 専門部会の調査について

専門部会の調査は、これまで専門部会に所属している観察員の方だけが参加していました。今年は、専門部会に所属していない観察員の方でも専門部会の調査に参加できることとしました。専門部会での調査日程等については、事前にお知らせしますので、参加をご希望の方は、その都度、センターまでご連絡ください。

3. かんきょう学習セミナーについて

今年度は、4つの専門部会がかんきょう学習セミナーをそれぞれ1回以上企画する事にしました。各専門部会での話し合いの結果、次のようなセミナーを開催することとしました。このかんきょう学習セミナーは、自然環境観察員以外の一般の方でもご参加いただけますので、皆さまも是非お知り合いに声をかけてご参加

ください。すでに植物調査部会主催と河川生物相調査部会主催のかんきょう学習セミナーは終了しました。結果は各部会の報告内に記しました。

また、今後予定している湧水調査部会と野鳥調査部会のかんきょう学習セミナーは次のとおりです。

内容	会場	日程	主催
湧水めぐり	道保川公園方面	10月16日(日) 9:30~12:00	湧水調査部会
野鳥観察会	津久井湖城山公園	12月4日(日) 9:30~12:00	野鳥調査部会

専門部会の活動について

野鳥調査部会

野鳥調査部会のリーダー、サブリーダー、とりまとめ部会担当は、以下の方々に決まりました。よろしくお願いたします。

リーダー：荻原信行さん、サブリーダー：小川路人さん、とりまとめ部会担当：仙田肇さん

今年度に入ってから、春季（渡り期）調査を5月7日（土）に、夏季（繁殖期）調査を6月4日（土）に、行いました。相模原北公園内でラインセンサス調査を参加者全員で行った後、2班に分かれ、A班が橋本町の住宅地、B班が大島の台地上で、それぞれ定点調査を行いました。

春季（渡り期）調査 5月7日（土）参加者9名。

当日は小雨が降りましたが、相模原北公園では渡り途中のキビタキのさえずりを聞くことができました。橋本町の住宅地ではツバメやヒヨドリ、ムクドリなど市街地に一般的な野鳥が確認され、大島の台地上ではキジ、コチドリ、ヒバリなどの畑、裸地などで見られる野鳥が確認されました。

夏季（繁殖期）調査 6月4日（土）参加者8名。

相模原北公園ではオナガが最も多く、ウグイスのさえずりも聞かれました。橋本町の住宅地では5月の調査と同様、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリなどが確認されました。大島の台地上ではスズメ、ドバトが最も多く、ムクドリ、イワツバメなどが確認されたほか、ヒバリも確認されました。



R 5



P 2 (B班担当)



P 9 (A班担当)

また、9月10日（土）に部会を開催し、野鳥調査部会主催のかんきょう学習セミナーについて、話し合いました。

河川生物相調査部会

河川生物相調査部会のリーダー、サブリーダー、とりまとめ部会担当は、以下の方々に決まりました。よろしくお願いいたします。



リーダー：小林義博さん、サブリーダー：武田弘毅さん、とりまとめ部会担当：田畑房枝さん

7月9日(土)には相模川大島キャンプ場下流で現地調査を行いました。参加者は9名で、天気、水温、川幅、水深などを記録したのち、水生生物を採集しました。水のおいしさは感じられず、きれいでした。ヒゲナガトビケラ、モノアラガイ、ハグロトンボ、エルモンヒラタカゲロウ、スジエビ、ニンギョウトビケラ、アユ、シマヨシノボリ、トウヨシノボリなど25種の水生生物が確認されました。

9月4日(日)には河川生物相調査部会主催で、水生昆虫の標本作りのかんきょう学習セミナーを、センター2階の活動室で開催しました。講師には相模原市立博物館の守屋博文さんをお願いし、水生昆虫の生態や採集方法、各種の特徴などについて、お話しいただいた後、標本作成を実施しました。お手伝い下さった河川生物研究クラブの皆さんにお礼を申し上げます。



植物調査部会

植物調査部会のリーダー、サブリーダー、とりまとめ部会担当は、以下の方々に決まりました。よろしくお願いいたします。

リーダー：藤井孝之さん、サブリーダー：中勝利さん、とりまとめ部会担当：青野久子さん、加々宮興さん、早戸正広さん

今年度に入ってから、5月26日(木)、6月24日(金)、7月5日(火)、8月2日(火)に部会を開き、今後の活動予定などについての相談や勉強会を行い、環境美化運動としてセンター前での草むしりやマツバボタンの植栽を行いました。9月10日(土)には、道保川公園で植物観察を行いました。



また、6月24日(金)に、相模原市立博物館において、植物調査部会主催の第2回かんきょう学習セミナーを開催しました。博物館学芸員の秋山幸也さんに講師をお願いし、相模原市の植物の状況と、市民が取り組む植物調査の意義とその方法についてお話しいただきました。その後、博物館施設見学を行い、貴重な植物標本などを見ることができました。

湧水調査部会

湧水調査部会のリーダー、サブリーダー、とりまとめ部会担当は、以下の方々に決まりました。よろしくお願いいたします。

リーダー：井口建夫さん、サブリーダー：岡野博さん、とりまとめ部会担当：貝瀬信さん

7月30日(土)に部会を開催しました。リーダーの井口さんから平成22年度の湧水通年調査結果について報告があり、質疑応答を行いました。また、湧水調査部会主催のかんきょう学習セミナーと今後の予定についても話し合いました。

平成23年度 下半期の予定

全体調査

とりまとめ部会	9月8日(2ヶ月に1回開催)
年次報告書発行	3月下旬(日程未定)

専門部会日程

植物調査部会	道保川公園調査	9月10日(土)
	勉強会	10月8日(土)
	高田橋～望地調査	11月12日(土)
野鳥調査部会	調査	10月9日(日)
	調査	1月15日(日)
	かんきょう学習セミナー はじめてのバードウォッチング	12月4日(日)
湧水調査部会	豊水期調査	9月18日(日)
	湧水期調査	1月22日(日)
	かんきょう学習セミナー 蛭を育む湧水めぐり	10月16日(日)

自然環境観察員制度の活動中の補償について

自然環境観察員制度の活動中の事故は、市のボランティア保険の適用を受けます。
身近な生きもの調査における調査担当地域までの行き帰りや、かんきょう学習セミナーにおける会場までの行き帰りは適用外となりますので、ご注意ください。また、車両に起因する損害賠償責任事故は対象となりません。
行事に参加する場合は、事前にご連絡ください。
事故があった場合は、早めにご連絡ください。

事故のないように気をつけて活動してください



平成23年9月発行
相模原市立環境情報センター
〒252-0236
相模原市中央区富士見1丁目3番41号
TEL 042(769)9248
FAX 042(751)2036
E-mail kankyo@eic-sagamihara.jp
<http://eic-sagamihara.jp/>

自然観察かわらばん

平成24年3月発行

平成23年度 第2号

平成23年度下半期の活動報告

第4回かんきょう学習セミナー

「蛭を育む湧水めぐり」～道保川の湧水をめぐり、水質や水生生物を調べよう～

平成23年10月16日 参加者：11名（うち6名は一般参加者）

湧水調査部会主催で、道保川付近の湧水の水質や水生生物について調査をしました。このかんきょう学習セミナーは、自然環境観察員だけではなく、一般にも公開して開催しました。



道保川公園事務所前で集合し、公園内の双子沢と入口の池、十二天神社を經由し、東沢まで歩き、湧水の調査や水生生物の採取を行いました。水質測定については湧水調査部会リーダーの井口さんが解説し、水生生物については河川生物相調査部会リーダーの小林さんと湧水調査部会サブリーダーの岡野さんが解説しました。また、自然環境観察員の参加者の方が調査や解説の補助をし、一般の参加者の方々も楽しみながら調査をしました。

第5回かんきょう学習セミナー

はじめてのバードウォッチング～初冬の津久井湖城山公園～

平成23年12月4日 参加者：15名（うち7名は一般参加者）

野鳥調査部会主催で、一般公開のかんきょう学習セミナーとして、初冬の津久井湖城山公園の野鳥観察を行いました。会場となった津久井湖城山公園園長の菅原さんに案内をお願いしました。当日は晴天に恵まれ、チョウゲンボウ、コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラなどの野鳥を観察し、津久井湖に浮かぶマガモ、ヒドリガモ、オオバンなどの水鳥も遠望することができました。また、園長の菅原さんからは野鳥以外の自然についての解説もしていただきました。



専門部会の活動について

野鳥調査部会

秋季（渡り期）調査を10月9日（日）に、冬季（越冬期）調査を1月15日（日）に、行いました。相模原北公園内でラインセンサス調査を参加者全員で行った後、2班に分かれ、A班が橋本町の住宅地、B班が大島の台地上で、それぞれ定点調査を行いました。

秋季（渡り期）調査 10月9日（日）参加者9名。

相模原北公園ではタカの仲間のツミの声が聞かれ、調査終了後には渡り途中のコサメビタキも確認されました。橋本町の住宅地ではヒヨドリとスズメが多く確認され、近くの境川から飛んできたのかカワウも確認されました。大島の台地上では渡り最中と思われるヒヨドリが多く見られました。

冬季（越冬期）調査 1月15日（日）参加者3名。

相模原北公園ではエナガ、シジュウカラ、ヤマガラなどの混群が見られました。橋本町の住宅地では飼育されているものと思われるドバト（レースバト）が数多く確認され、そのほかハシボソガラスやハシブトガラスなどが確認されました。大島の台地上では草地や疎林に住むホオジロが確認されました。



R 5



P 2 (B班担当)



P 9 (A班担当)

また、野鳥調査部会では1ページに記したとおり、12月4日（日）に部会主催のかんきょう学習セミナーを開催しました。

河川生物相調査部会

調査・活動は9月上旬までに終了し、本年度下半期には実施しませんでした。

植物調査部会

勉強会 10月8日（土）参加者3名

室内での勉強会を開催しました。藤井さんが講師となり、今日の環境問題や自然環境における植物の位置づけについて勉強しました。

観察会 11月12日（土）参加者6名

高田橋から望地弁天を経て水田のあぜ道を通って相模川堤防まで歩き、植物観察を行いました。川崎さんの指導のもと、シラネセンキュウ、キツタ、オニグルミなどを観察しました。



湧水調査部会



豊水期湧水調査 9月18日(日)参加者8名。

湧水台帳番号、24～30(29を除く)の6箇所(24清岩寺下、25神沢・滝、26神沢・上、27神沢、28老人福祉センター・溪松園下、30相模川自然の村・裏)において、河川生物調査部会、植物調査部会との共同で、調査を行いました。各調査地点の総評は、前回と同じ、または前回より下がりました。

渇水期湧水調査 1月29日(日)参加者6名。

豊水期調査と同一地点で行いました。各調査地点の総評は、前回と同じ、または前回より下がりました。

通年調査 4月以降1つの調査地点につき月1回実施、参加者10名。

平成22年度からの継続調査として、4月と5月に8箇所の地点(3道保川公園、5十二天神社横、10相模ヶ丘病院下、13勝坂遺跡、17塩田ホーム脇水路、18東急工建下、20望地の渡し・上流側、24清岩寺下)で、毎月1回、湧水の通年調査を実施しました。ただし、20と24は4月の調査を実施しませんでした。5月から3月にかけては上記の8箇所に2箇所(7フィッシングパーク上、15当麻山公園)を加え、10箇所、毎月1回、湧水の通年調査を実施しました。調査日は調査地点ごとに担当者の方が都合のよい日に設定しています。



また、湧水調査部会では1ページに記したとおり、10月16日(日)に部会主催のかんきょう学習セミナーを開催しました

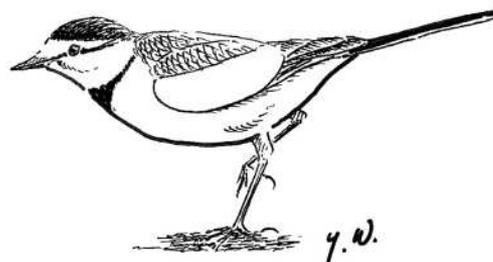
調査結果のとりまとめ

今年度は、これまでに自然環境観察員制度の活動の中で集積してきた調査結果のとりまとめを行うために、とりまとめ部会を設置し、会議を3回実施しました。現在は平成13年度から22年度までの10年間に実施してきた、「全体テーマ調査」の結果とりまとめの作業を行い、セイタカアワダチソウ、ススキ、在来タンポポ、外来+雑種タンポポ、ツバメ、イワツバメ、キジバト、ヒバリの各種類について、調査結果の解析を行っている最中です。

第1回とりまとめ部会 平成23年6月30日 参加者14名

第2回とりまとめ部会 平成23年9月8日 参加者6名

第3回とりまとめ部会 平成23年12月3日 参加者9名



学びの収穫祭

平成23年11月19日(土)～20日(日)

相模原市立博物館で、「学びの収穫祭」と題した市民の研究活動の発表会が行われ、自然環境観察員制度は口頭発表と展示発表を行いました。口頭発表では自然環境観察員制度についてと野鳥調査結果(特にキジバトについて)について発表し、展示発表では自然環境観察員制度についてとジョロウグモ分布調査結果について発表しました。発表は小川さんが担当し、質疑応答が活発に行われました。



第18回市民環境活動報告会

平成24年3月3日(土)

かながわ県民センター2階大ホールで行われた市民環境活動報告会で、自然環境観察員制度の活動内容と調査結果について、小川さんが発表しました。調査結果は、全体テーマ調査で実施した野鳥調査と野鳥調査部会調査結果の中からキジバトのデータを取り上げ、発表しました。

平成24年度の予定

平成24年度は自然環境観察員全員で取り組む全体テーマ調査として、セミの鳴き声調査を実施します。また、平成23年度の活動報告会を兼ねて、以下のとおり平成24年度第1回かんきょう学習セミナーを開催いたします。詳しくは別紙案内をご覧ください。

日時 平成24年4月14日(土)午後1時30分から5時まで
場所 環境情報センター 学習室

平成24年度自然環境観察員登録更新について

平成24年度の観察員さんの登録更新は、3月25日が締切でした。登録更新のご案内をすでに差し上げていますが、登録更新をまだ済ませていらっしゃらない方は、早めに登録更新を行って下さるよう、お願い申し上げます。

平成24年3月発行

相模原市立環境情報センター

〒252-0236

相模原市中央区富士見1丁目3番41号

TEL 042(769)9248

FAX 042(751)2036

E-mail kankyo@eic-sagamihara.jp

<http://eic-sagamihara.jp/>



平成 23 年度 相模原市自然環境観察員の皆様

敬 称 略

青木 喬	貝瀬 信	下口 直久	根岸 実
青野 久子	加々宮 興	杉山 正明	野口 靖夫
秋山 寛栄	片山 修	清野 里美	野口 幸夫
秋山 大征	川崎 香代	瀬川 公男	早戸 正広
浅原 米子	川村 悦子	関 由利子	原 正明
安達 桂	河原田 宏之	関塚 良子	原田 和実
荒 翔子	川原田 稔	仙田 肇	福田 昭三
井口 建夫	北村 陽子	高崎 洋一	藤井 孝之
池川 源基	木村 知之	高橋 孝子	星野 秀樹
石島 和宣	木村 直之	瀧島 照夫	堀川 樹
市川 ケサノ	栗田 イツ子	田口 常利	益子 弘
岩瀬 仁勇	小泉 綾子	田口 英子	松元 太洋
岩田 正利	児玉 明彌子	竹内 真次	水上 伸也
上田 真人	小林 千代	武田 弘毅	宮崎 精励
内田 英樹	小林 義博	田畑 房枝	柳下 信男
宇山 勝彦	金銅 幸俊	田村 淳子	山口 富子
遠藤 学	斉藤 敬三	土屋 晴美	山口 元秀
大湖 聡史	斎藤 裕子	富岡 英明	横木 初美
岡野 博	齋藤 嘉美	中 勝利	吉岡 歌子
小川 路人	澤口 範子	長岡 弘治	吉岡 孝夫
荻原 信行	塩沢 徳夫	中島 朋来	
小原 敬子	鹿内 義敬	中村 有理子	
折笠 良子	清水 輝男	西田 和子	

平成25年2月発行

平成23年度 相模原市自然環境観察員制度 年次報告書

(発行) 相模原市立環境情報センター
〒252 - 0236
相模原市中央区富士見1丁目3番41号
TEL 042(769)9248(直通)
FAX 042(751)2036(直通)
電子メールアドレス: kankyo@eic-sagamihara.jp